

中高生の読解力は危機的状況… 約半数が教科書の内容を理解できていない

【読解力を養うために知っておきたい7つのこと】

2021年11月26日 9:30 配信

「子どもの読解力低下」がよく話題になりますが、そもそも子どもたちが身につけるべき読解力とは何なのか？『AI.vs.教科書が読めない子どもたち』でおなじみの新井先生にお話を伺いました。

★ 中学生の半分は教科書の内容を理解できていない、これが何より問題です

○ [新井紀子](#)さん 国立情報学研究所社会共有知研究センター長・教授教育のための科学研究所 代表理事・所長 数理論理学を専門に、人工知能や地方創生等、文理融合分野で幅広く活動。

2011年より人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトディレクターを務める。2016年より読解力を診断する「リーディングスキルテスト」の研究開発を主導。

読解力というと、[川端康成](#)の小説や[小林秀雄](#)の評論文を読んで作者が訴えたいことや意味を読み取れるか、という文学の読解力をイメージするかもしれませんが、しかし、私が注視しているのはそのような意味の読解力ではなく、辞書にある通り、「文章の内容を理解する」という、ごく当たり前の意味での読解力です。

現在、日本の中高生の読解力は危機的と言っていい状況にあり、約半数は中学校の教科書の内容を正確に読み取ることができません。『STORY』読者の方には子どもが小説を読まないことよりも、教科書を読めないことに危機感を覚えてほしいのです。

読解力はほとんどが高校卒業までに獲得されるもので、大人になってから飛躍的に向上させることは難しいもの。お子さんたちには中学卒業までに、生きるうえで必要とされる読解力や常識、発想力を備えて AI には肩代わりできない力を身につけてほしいと思います。

★ 子どもが生きていくために必要な「読解力」を養うために ...

<知っておきたい7つのこと>

【1】 大事なのは「どの科目の教科書も意味が分かるようになる」こと。文系理系に関係なく、どの科目の教科書も正確に読める力を“汎用的読解力”と呼びます。教科書の見開き2ページから情報を取り出し、大事なポイントを挙げられるかどうか。そのような読解力をつけることが重要ですし、人生を左右するものだと思います。教科書と新聞はどの家庭にもあるはず。この2つを毎日読むことを習慣にしてみてもは。

【2】 「どの大学に入れるか」を決めるのは読解力と推論の力です。教科書には見出しがあり、見出しから本文の内容を把握・推測できるのですが、大半の子どもはそれができていない。また教科書の本文だけに目がいき、欄外を飛ばすことも多い。偏差値の高い大学に合格するには欄外のデータや補足説明を読み解き、本文との関係性をつかむ“PISA型読解力”が求められます。これは学校の推薦図書を読むだけでは身につかず、教科書をしっかり読み込むことで鍛えられます。

【3】 「授業を聞きながらノートをとる」ことができない子が増えている。「視写 ※」を苦手を感じる子はたいてい筆圧が弱く、普段からきちんとノートをとっていないケースが多い。1分間にそれなりの量の文字を正しく視写ができることと、先生からの評価は相関が高く、視写には学校での学習や生活において重要な要素が含まれていると考えられます。脳の[筋トレ](#)のためにも、プリント学習一辺倒は避けてほしいと思います。

※ 視写＝この場合は先生が黒板に板書した内容や話した内容をノートに正確に書き写すこと。

【4】 読解力の向上は「中学卒業まで」に何とかしたい。

「自分は〇〇の科目が苦手」と感じる場合、原因の大半はその科目の教科書を読み解く読解力がないことです。読解力は精読や視写のような脳の筋トレで鍛えられるので、自分の学習法が固まってしまう中学卒業頃までに鍛えておきたいところ。脳の筋トレは地味でつまらないかもしれませんが、苦手科目をつくらないためにとっても重要です。

【5】 「動画依存」は自分ではコントロールできない問題です。

幼い頃から YouTube の自動再生が当たり前でつまらないものを飛ばす習慣がついていると、短時間に視覚・聴覚的刺激のあるコンテンツでないと満足できなくなってしまう。他人の話をしっかり聞けず、学校の授業もちゃんと聞けない状態になることも。刺激的で面白いと感じる動画コンテンツには中毒性があり、自分でコントロールすることは難しいので、1日に15分までなど親が制限をしましょう。

【6】 「一人の時間」「暇な時間」が子どもには必要です。

特に小学校高学年以上の子どもには、成長するうえで一人の時間が重要。時に寂しさを感じながらも、一人で何かをやる中に創造性の種があり、自分らしさを形成していきます。こちらの意志ではどうにもならない植物や会話のできないペットと、または自転車に乗るなど自分の体を相手に過ごす時間を1日1時間確保することが望ましいと思います。

【7】 レシピ通りに料理することが「読解力 UP」のヒントになります。

初めて挑戦するお料理レシピを見ながら親子で作ってみましょう。子どもは手順通りに行うのが苦手なので、手順を飛ばしたりつまづいたりするもの。そこで母親が先回りせず、できるだけ子どもに手順を読解させること。「水にさらす」などまだ知らない語彙を把握でき、つまづきポイントにも気づけます。楽しくトレーニングできて、美味しいお料理も一品完成するなんて一石二鳥じゃないですか（笑）。

取材/[伊藤綾香](#) ※情報は「STORY」2021年11月号掲載時のものです。